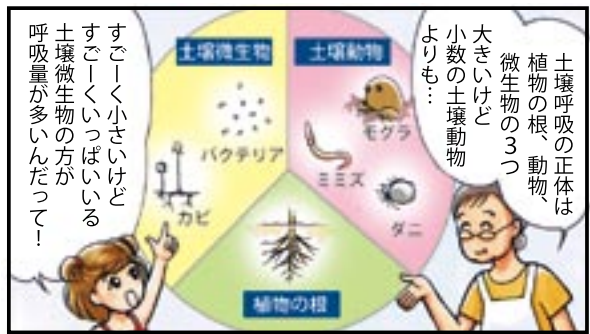


本当に土は生きてるの？



「土は生きてる」というのは、よく聞く言葉です。皆さんは本当だと思いますか？ 答えはイエス。ちゃんと、証拠もあります。土の表面からは絶えず二酸化炭素が出ているので、実際に測ることが可能です。このことを「土壌呼吸」といい、わたしたち人間や動物と同じように「呼吸」という言葉が使われます。酸素を吸って二酸化炭素を出しているのです。

土壌呼吸は、土が生きてるこの証拠と言えることができるでしょう。とここで、土壌呼吸の正体は何でしょう？ 砂や土などが呼吸をしているのでしょうか？ 答えは、ノー。呼吸をしている正体は、土の中にたくさん住んでいる生き物たちです。モグラやミミズ、ダニなどサイズの大きなもの



は「土壌動物」、カビやバクテリアのように小さなものは「土壌微生物」と呼ばれます。植物の生きた根も土壌呼吸の一部を担っています。これらのうち、大きいけれども数が少ない土壌動物よりも、小さくても数が桁違いに多い土壌微生物のほうが、土壌呼吸の量が圧倒的に大きいといわれています。まさに、「チリも積もれば山」ですね。これら土壌微生物は、土壌中で生きていくために動



土壌呼吸の量を増やすには、微生物の過ごしやすい環境を保つことが大切です。その条件はふつうには温度が高くなるほど良くなります。また、土壌の水分によっても変わり、乾きすぎでも湿りすぎでもダメで、ちょうど良い湿度具合のときに、最も活性が高くなるのです。皆さんも、野菜や花などを育てるときに、土壌が呼吸しやすい環境を作ってあげましょう。